

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設から10年を経過しましたが、初心を忘れずたとえ意思困難な状態になられたとしても今まで一緒に生活を送ってきたスタッフが利用者様の希望や喜び、安心感を肌で感じ表情やしぐさで共感しており現状のケアに満足するのではなく常にスタッフ自身がされて嫌な事、嬉しい事心地よく感じる事を考えながら『今を大切に』という理	○	利用者の方々が、当ホームが第2の家であり、私達スタッフが家族に近い存在と想い安心して暮らせる事
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の方々が、『今』しなければいけない事、望んである事の大切さを事例を通しスタッフ間で同士で伝え実行する	○	これからも『今を大切に』の理念を利用者の方々を通し伝えていきたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議、年間行事、月1回発行のお便り・野いちご新聞を通し地域の回覧板や御家族へ知らせている。また随時連絡の必要性がある場合は電話や文書で知らせている。	○	利用者の方々、御家族。地域の方々が本音で希望や意見等が反映できる体制や環境作り
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の近隣の方々からとりたての野菜や果物を戴いたり散歩中の会話やホーム手作りのお菓子を配ったり(警察署・消防署)認知症やグループホームを少しでも理解していただく	○	今後も利用者の方々が、地域と密着できるように地域の方々やご家族へ協力を呼びかける
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の方々が地域の一員として参加することが多くなってきた。地域の話し合い等にも参加し地域を今まで以上に知ることができた	○	今後も地域の一員として地域に関わる行事等に可能な限り参加していきたい
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々には、グループホーム、認知症という理解が得られておりホームでの生活を大切にしてほしい意見が多くある	○	今後も利用者の方々や私達が地域一員として出来ることを話し合いながら取り組んでいきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善計画書の作成は行い前回の外部評価後の意義や理解に対しての改善は行った	○	今後も外部評価の評価に対し素直に受け止め改善を図っていきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に新聞等を資料とし、報告し意見等は次の会議で返答や報告している		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険制度が変わる中で、市町村の対応も急激に変化したように思う。市町村担当者も移動等かわる為、市町村によって体制にばらつきがみられるように思う。ある行政については結果についての指摘に近い指導・評価ばかりで良い評価をした受けたことがない。また事前に集団指導するという事もなく、事業所だけで試行錯誤	○	地域密着となってから、行政の対応が以前と違い相談できる体制になっていないと感じる。事業所だけに責任を押し付けている態度がある。事業所だけが質の向上を図るのではなく行政も変わってほしい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部、内部勉強会や研修参加で学んでいる。但し、必要性や活用までにはいたっていない。	○	必要性があると思われる利用者の方のご家族には説明は行っているが積極的ではないが今後も活用の必要性があれば説明や相談を行って行きたい
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所として、認知症の利用者を守る立場として、虐待防止に努めることは当然の事である。	○	今後も、高齢者虐待防止関連法について強く啓発し取り組んで行きたい
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明により理解、納得していると思う	○	現在までに関する意見等はないが今後も誤解を与えないようなわかりやすい説明に取り組んで行きたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満、苦情等の相談窓口はホーム内、市役所に設置の啓発や説明は行っている	○	今後もご家族や利用者の意見が反映できるような環境、雰囲気作りに配慮していきたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお便りに記載したり電話連絡等で報告を行っているが、スタッフの移動に関しては御家族の面会時や敬老会時にお渡ししている写真入の職員紹介カードで報告している。	○	短期間の職員の退職については報告が行き届いていないので今後は報告していきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情等があれば運営推進会議で上げご家族へお便り等で報告及び今後の取り組みを記載し説明している	○	今後小さな意見や苦情もホームに反映できるような雰囲気、対応ができる環境を作って行きたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議等でスタッフの意見等が反映できる場を設けている。また大人数では意見が出しにくい場合もあるので状況に応じ対応している	○	今後スタッフの意見が反映できる雰囲気作りの機会を多く設けより良い介護支援が利用者の方々に提供できるようにしていきたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行っている	○	利用者の方々の状態に合わせスタッフに必要以上の負担、不安がかからないように話し合い調整を図っている。今後も状況に応じ柔軟性のある介護支援に努めて行きたい
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動は利用者の方々の精神状態に負担や不安をもたらすため極力無い様にし離職者が出ないよう給与や賞与にもオーナーが最善方法を行っている。また、職員の質向上も視野に入れながら移動の場合は他の慣れた職員がフォローするように心がけている	○	現在、介護職員の離職は社会問題となっている。今後は事業所だけでの改善や対応で解決する事は難関である。
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	配慮している	○	今後性別や年齢等で採用を断る事はなくそのスタッフが利用者の方々の立場に立つ力量を重視し、また良い能力や意見があれば取り入れるようにしていきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部、外部の研修で人権、尊厳についての大切さを勉強している	○	今後も、今以上に人権、尊厳、権利の必要性を学んで行く為にも認知症の疾患をよく理解した基礎的な知識の教育に取り組んでいきたい
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育成するための計画書作成は作成していない。段階的に応じての研修や地域グループホーム部会での育成研修会には率先して参加させている	○	今後は、外部にも職員研修を行っていることが分かるように計画書作成に取り組んでいきたい。また、近隣の研修だけではなく遠方の研修にも参加させていきたい
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行っている	○	八女地区介護保険連絡協議会グループホーム部会研修等を通し他事業所間との情報交換や交流を月1回程度行っている。今後も、お互いの事業所が目的意識を共有し明確にすることにより良い競争心が生まれ、質の向上が、今以上にできるように努力していきたい
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	取り組んでいる	○	ストレスが蓄積する仕事なので休憩時間の配慮や勤務中の職員間の協力体制、介護支援への不安が生じた時の早急な解決、勤務時間内に終了できるように記録重複の簡素化、に取り組んでいるため今後も職員間での協力体制を強化し継続していきたい
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	努めている	○	職員が意見は極力取り入れたり参考にして日々の利用者の支援に役立っている。また今後、やりがいのある介護支援の考えに導く為にも、職員間での励ましあいや成功への喜びを共感できるような今後も取り組んでいきたい
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	行っている	○	御家族、関係機関からの情報収集や面接を通し精神・身体状態をアセスメントシートにて情報収集しホーム利用にあたり、利用者の方にあつた最善の環境で受け入れられるように
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	行っている	○	御家族の入居利用に至るまでのプロセスを十分に聞き取り理解しこれからホームでの生活を御家族と共に協力し安心できる環境作りを継続していきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ほとんどの方が入居利用を決定してみえるため他のサービス利用の相談対応件数は少ないが、必要時には紹介や連絡調整を行っている	○	今後も地域密着型サービス機関としての役割を広げていきたい
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、御家族からの希望があれば取り組んでいく	○	ホームでの体制が十分にできれば今後も入居目的のホームだけではなく、利用者の方々が安心して集う場所の提供支援にも力を入れていきたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	築いている	○	小さくても新たに出来ることや発見を見逃さないように、頭から何も出来ない、理解できない、思わない支援を今後も取り組んでいきたい
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	築いている	○	今後も、常に御家族の支援、協力、了解の上で調整を図り利用者の方の介護支援を行ってきたい
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	支援している	○	生活において利用者の方々の家族への思いや生活はお知らせするようにしており今後も良い関係が継続できるように努力していきたい
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めている	○	入居以前より利用していた、美容院や理容室の利用に際し送迎等の協力を今後も継続していきたい
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	支え合えるように努めている	○	利用者個人を尊重し大切に支援しながらも共同生活の良さ、助け合い、支えあい、思いやりが必要な場面で役立つように今後も努力していきたい
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	大切にしている	○	お亡くなり、退居された利用者のご家族が今でも訪れたりお手紙のやり取りを行ったりと良い関係が続いており今後もホーム全体で努力していきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている	○	利用者の方の気持ちに寄り添うことで何が必要かを考えながら支援する
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている	○	アセスメントシートや御家族、利用者の方からの情報等で最善の暮らしを検討支援している
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	努めている	○	職員間の申し送りや利用者の方のその日の状態、状況を十分に把握したうえで支援している
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成している	○	入居以前の関係者からの情報や現状の暮らしから勘案した利用者の方の意見に添った暮らしを計画に取り入れるようにしている
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	活かしている	○	3ヶ月に1回の見直しを行っているが、入院、状態変化、計画の変更等によりその都度計画の変更を見直している
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている	○	計画にも重要な部分となり特に生活状況を主に記録に残すようにしている

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	支援している	○	馴染みの関係を大切にして柔軟な支援を行っているが、今後可能な限り多機能性のあるホームとして機能していきたい
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	支援している	○	民生委員やボランティア、教育関係機関との協力はもちろん消防署や警察署との協力が得られるように避難訓練の実施や手作りお菓子を配ったりしてホームの啓発に取り組んでいる
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	している	○	今後も他のサービスの必要性が生じた場合を想定し取り組んでいきたい
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行っていない	○	今までに事例が生じてないため協働することが無かったが必要性があれば協働していきたい
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している	○	利用者の力の身体、精神状態を考慮して取替の方法をとる医師としない医師がおり利用者の立場に立った意見を述べると憤慨したり、今まで診察してきた利用者の方を自分の休日を優先し、急に入院を薦めたりと入居者の方が困るケースが度々ある。また、そんな医師ではないと他に往診する病院等が無いのが現状
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	支援している	○	生活状況、疾患や内服等の効果を報告し相談している
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	支援している	○	定期的に訪問する看護師や協力医療機関関係者へ相談し活用の支援を行っている

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	行っている	○	生活環境の変化により身体、精神状態が悪化するケースがある為、ご家族や医療関係機関とも相談しながら退院が早期に出来るように支援している
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	共有している	○	状態に応じた説明を医師より行ってもらい現状の周知と今後の対応や支援方法の把握を行っている
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	行っている	○	終末期についてはホームでの対応での見極めが重要なポイントであるため医療機関体制が整ってなければ当然取り組むことが出来ないため変化に応じて医師、御家族、利用者間での検討や準備を行っている
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケースが無いため行ってない	○	必要性があれば取り組んでいきたい
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	行っている	○	今後も最新の注意を払って取り組んでいきたい
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	支援している	○	利用者の方の立場に立ち自分の力が出せるような支援方法を考え取り組んでいきたい
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している	○	自由に暮らせることの権利への支援に取り組んでいる

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	努めている	○	利用者の方が希望すれば、行きつけの理容・美容に行っていたりしている。また、送迎への支援も行っている
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている	○	その日の状態に応じて準備や片付けが出来たり出来なかったりするがその利用者にあった役割分担を重点に支援している
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	努力している	○	特に制限が無ければ楽しみが持てるように支援している
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	支援している	○	可能な限り快適に過ごせるよう個人に合った排泄方法を支援する
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	支援している	○	判断可能な利用者の方の希望に応じて対応している
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	支援している	○	自ら、活動できない利用者の方は、一日中、ソファや椅子で過ごすことは苦である為、昼食後暫くしてお昼寝や横になることを進めており実行していただいている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	全ての利用者の方に対し支援しているとはいえない	○	楽しみ事に関しては、生活の中で活かしていない為、今後活かせるように支援していきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している	○	買物や外出等により金銭の受け渡しを行っていただいている。また、可能な限り金銭管理も行っていただいている
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	全面とはいえないが支援している	○	個別に出来るように努力していきたい
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	働きかけは行っているが、御家族によっては協力が得られない場合もある	○	外出や外泊により介護することに対し大変という認識ばかり考え利用者の方の気持ち考える余裕が無い御家族がおられ今後の課題として少しでも可能になるように努力していきたい
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している	○	お便りの郵送や手紙が書けない場合には電話対応を行っており今後も支援が拡大できるように努力していきたい
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	工夫している	○	利用者の方とゆっくり落ち着いた雰囲気過ごせるように居室へお茶セット(急須・お茶葉・ポット)を渡したり、月ごとに増えるアルバムを見てホームでの生活を知っていただいたり支援している
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる	○	特に認知症の利用者の方に関わるものとして身体拘束が必要ではない生活が送れること体験している介護者として今後も併発し取り組んでいきたい
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる	○	居室のドアには鍵は無く、もちろん玄関は日中、鍵は施錠せず時には天気の良い日には玄関は開いた状態である。利用者の方が外に出たい様子であれば可能な限り散歩等を行い気分転換を行っている。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	配慮している	○	転倒等の危険性が無い様に配慮しており可能な限り制止するのではなく自由に行動していただいている見守りを行っているため今後も取り組んでいきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り組んでいる	○	危険性のあるもの管理は十分管理し生活感が失われないような環境づくりに配慮するように今後も努力する
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	取り組んでいる	○	利用者の方に関する知識は介護支援を提供する者として絶対必要不可欠である為、内部・外部研修には積極的に参加する様に指導している
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	行っている	○	消防署や外部、内部研修の参加し非常時の対応が敏速に出来るように知識向上に努めている
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	回覧板と民生委員への依頼	○	確実に明確な依頼方法を検討し取り組んでいきたい
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	話し合っている	○	リスクが生じる恐れがあると判断した場合には職員はもちろんご家族へも早急に報告、相談し今後の検討を図っている
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	結び付けている	○	日頃の小さな異変にも気づき早期対応が出来るように日々指導している
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている	○	文献等を個人別にファイルしており薬の内容や副作用、効力を再確認するように日々指導している
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	取り組んでいる	○	便秘改善の為、適度な運動や腹部マッサージ、繊維食材の活用を行い、医師とも相談した上で極力緩下剤等を使用しないように努力している

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	支援している	○	食後の歯磨き、うがいや不可能な利用者は綿棒による口腔ケアや歯科医師への受診や往診を行っている
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している	○	記録により把握し支援している
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	実行している	○	インフルエンザ予防接種は全利用者、全職員が接種し感染症に関しては内部、外部の研修や保健所へ研修依頼をしホームでの研修を行った
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	努めている	○	外部、内部研修会の勉強やマニュアル等により予防に努めている
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	工夫している	○	広い玄関や緩やかなスロープやバリアフリー建築である。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫をしている	○	極力、大きな音は立てない様に配慮し光は射光カーテンで調整しゆっくりと過ごせるように職員自身がゆったりとした行動で仕事をするように心がけている
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している	○	利用者の方が落ち着ける場所と認識しているソファや椅子の配置に工夫をしている
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	行っている	○	家具は利用者の方が使い慣れた、馴染みのある物を持ち込んでいただいております、少しでも馴染んだ環境で過ごしていただいております

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	行っている	○	
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで平屋の木造建築のため過ごしやすい環境にはある	○	
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗しても落ち着いた態度で接している	○	
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	活かしている	○	

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない